



2021年度 JLAジュニアライフセービング クラブハウス実施報告書

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部 地域教育推進委員会 委員長 木島 悠太郎

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

1、ジュニア指導者の置かれた現状

1) 指導者同士が対面する機会が希薄

① Jr指導資格取得者数の少なさ

- ・ジュニアライフセービングプログラムは、その地域を活動拠点とするライフセーバーが担うことが多くあります。そのため特化した資格や研修を受けずに指導に携わるケースも多く、リーダー資格、指導者資格の取得が進みにくい現状にあります。

② コミュニティの不足

- ・資格取得者の少なさに加え、ジュニアに特化した資格の更新講習会や、スキルアップのための研修会などは多くありません。

⇒ 「指導者同士が対面する機会が少なくなる傾向。」

クラブハウス実施のきっかけは？

ジュニア指導者からはこのような声が聞かれます。「他のクラブはどんな内容でやってるのか。」「保険などはどうしているのか。」「参加している子どもたちの部活動との両立はどうしているのか。」など



「事故を未然に防ぐ、真の未然は教育にある」

『JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION ANNUAL REPORT 2020 | 日本ライフセービング協会』より

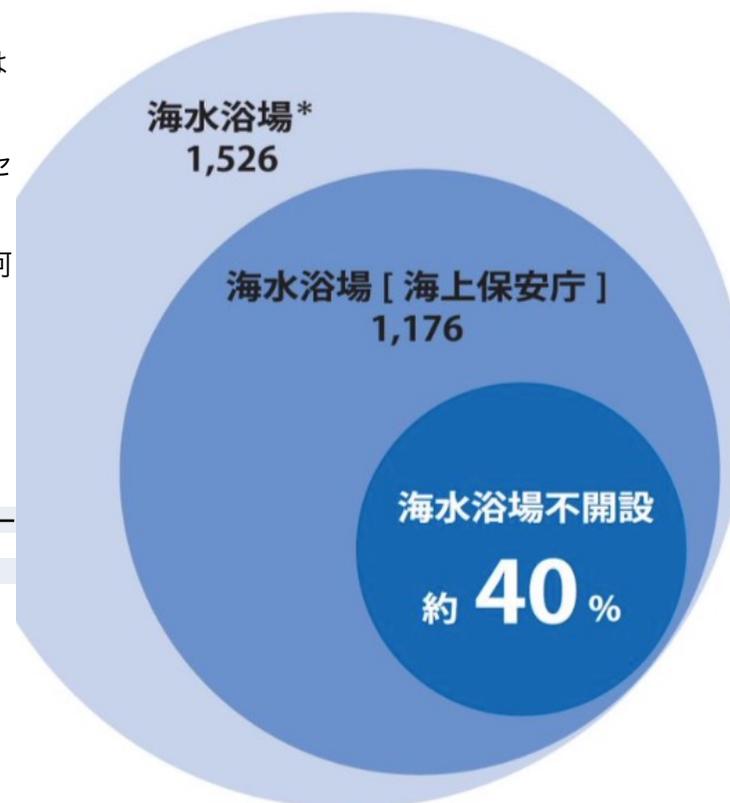
2) ジュニア教育推進の必要性

- ・ 全国にある1,176の海水浴場のうち、211ヶ所にしかライフセーバーはいません。（およそ18%）*1
- ・ 近年はコロナ禍の状況により、海水浴場が不開設となり、普段ライフセーバーがいた場所でも不在となった場所が多数あります。
- ・ コロナ禍により河川や自然海岸に利用者が流入し、もともとあった「河川や自然海岸で事故が多い」という問題が顕在化しました。
- ・ 釣りなど水辺活動は、もともと通年にわたり行われています。
- ・ コロナ禍により多くの学校で水泳授業が中止となりました。

⇒ より多くの人に水辺の安全に関する教育を受ける機会が必要である。

出典：*1日本ライフセービング協会『JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION ANNUAL REPORT 2020』,p.10-12.,p.29.

2020年の海水浴場の開設状況 (海上保安庁調べ 2020年7月)



* 海上保安庁、環境省、JLA、Google

2、事業計画 - 事業イメージ

1) JLAジュニアライフセービングクラブハウスの役割

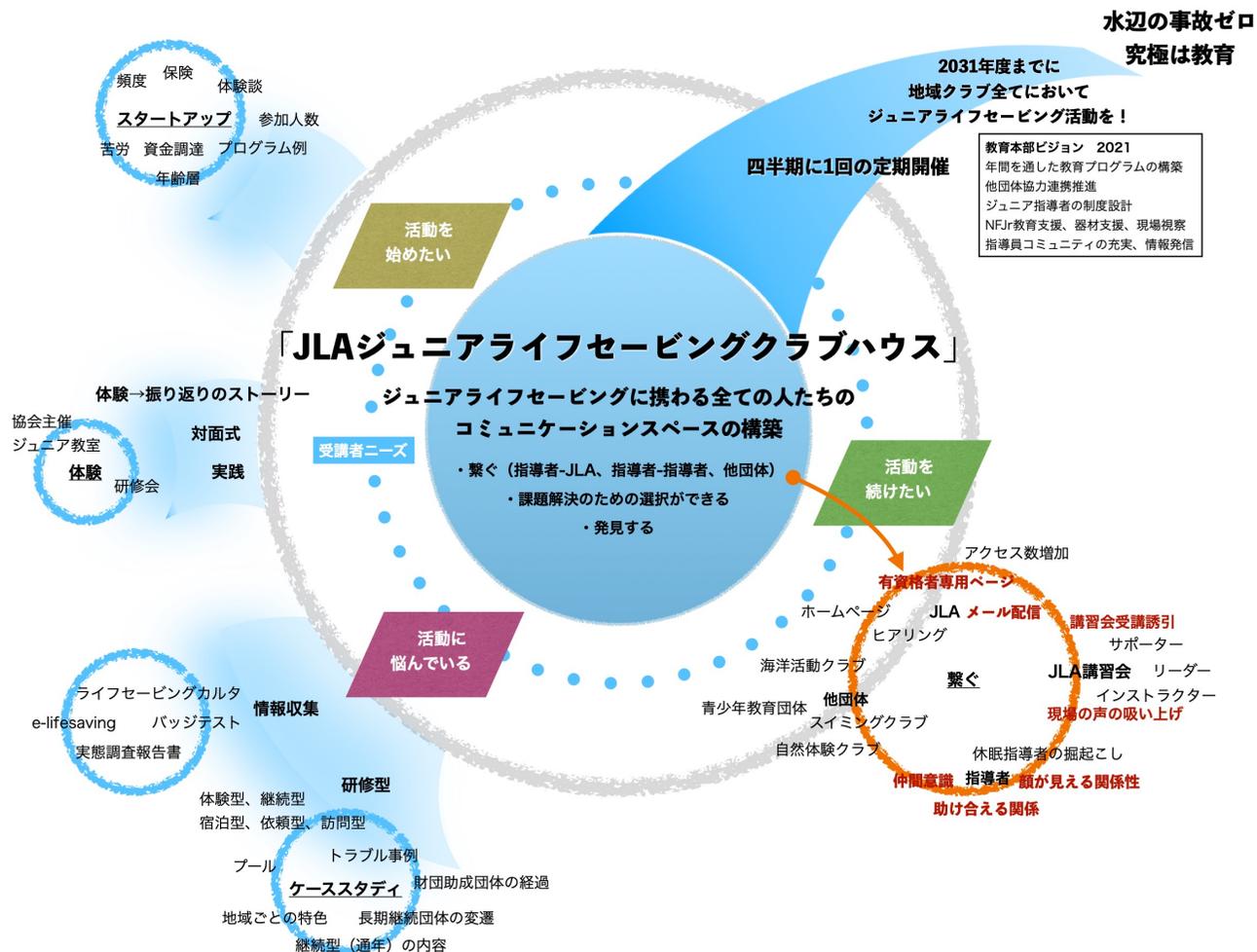
人と人を「繋ぐ」ボンドとして

- ・ジュニア指導者—ジュニア指導者
- ・ジュニア指導者—JLA
- ・ジュニア指導者—他団体



- ・ 助け合える関係性
- ・ 実践を基にした解決策やアイデアの発見、共有
- ・ JLAからの情報発信
- ・ JLA資格への実践知の還元 など

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE



3、実施概要

- ・【手法】 オンライン開催（zoom使用）
- ・【日時】 2021/12/5 日曜日 18:00～19:30
- ・【告知】 Lifesaversによる一斉送信メール及びSNSによる告知。
- ・【メインプログラム】 意見交換会（グループワーク）
 - ・ 1グループ6名×5グループ。メンバーは、できる限り多くの人とコミュニケーションが取れるように事前調整。
 - ・ 30分/1回（1人あたりおよそ5分を想定）×2回。
 - ・【当日委員役割】 プログラム進行1名。意見交換会ファシリテーター5名。（内zoomホスト3名）



JLA ジュニアライフセービング クラブハウス



JOIN US TO GROW JUNIOR LIFESAVING

2021/12/5 (日) 18:00～19:30

JLAが考えるジュニア
ライフセービング教育の
ビジョン

グループワーク
ジュニア活動に関する
情報交換会

グループワーク
これからのジュニア
教育に望むもの

日本ライフセービング協会では

「2031年までにすべてのクラブに
ジュニアライフセービング活動を」

をビジョンとしています。

ジュニア活動をしている、またはこれからしたい方々が気軽に
集い、語り、ジュニア活動を身近に感じてもらいたい。
そのための第一歩として今回、開催することになりました。

@ZOOM
申し込み締切 12/1 12:00
参加費無料



申込みは
こちら



日本ライフセービング協会
教育本部 地域教育推進委員会
info@jla.gr.jp

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

4、参加者の地域別傾向



最多は神奈川県5名、2番目が東京、沖縄の3名、3番目が千葉県、埼玉県、愛知県、京都府、広島県、山口県と続いた。全国から幅広く応募があったが、ライフセーバーの多い地域や、委員が直接声をかけられる地域では参加が多くなる傾向にあった。



宮城県	1
新潟県	1
千葉県	2
埼玉県	2
東京都	3
神奈川	5
愛知県	2
京都府	2
鳥取県	1
広島県	2
山口県	2
愛媛県	1
大分県	1
宮崎県	1
鹿児島県	1
沖縄県	3

5、申し込み状況

・ 熟練指導者の参加が中心。

- ・ 参加者の半数以上がインストラクター資格取得済み。現在も指導に携わっているか、過去指導に携わってきた方の参加が多く、各地で中心となって活動されているライフセーバーが多く参加しました。

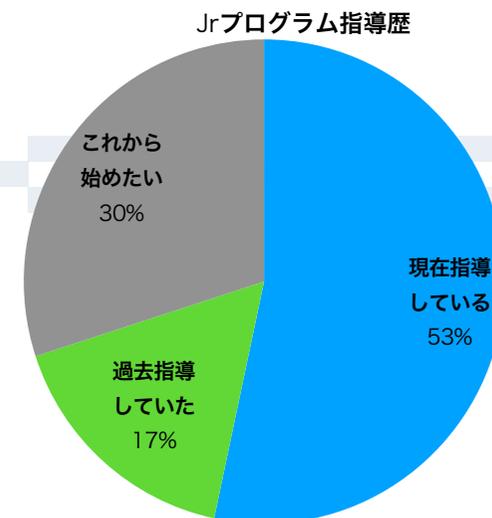
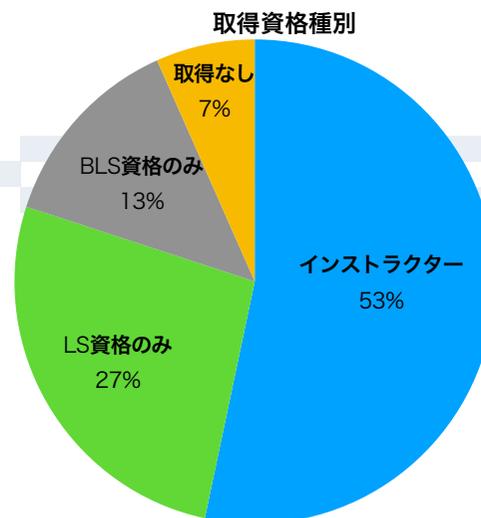
⇒告知方法を工夫し、これから始めたい人、始めたばかりの指導者の参加を促進。今後は、学生も含めた多くの参加を促進するため、学生室やJLA各部と連携を取ります。

・ LS関係者以外からの参加。

- ・ 地域教育、自然体験、マリンアクティビティなどの事業者、指導者や学校関係者などの受け入れを促進するか。

⇒まずは、現指導者同士の交流機会確保に注力します。2ndステージとして、各地で教育に携わる団体の皆様との連携を強化して参ります。現状で応募いただいた団体の方々には、近隣のクラブなどを紹介、そこでの地域連携や他業種連携を実践知として蓄積していくことも検討します。

	名	%
申し込み	30	
取得資格種別		
インストラクター	16	53.3
LS資格のみ	8	26.7
BLS資格のみ	4	13.3
取得なし	2	6.7
Jrプログラム指導歴		
現在指導している	16	53.3
過去指導していた	5	16.7
これから始めたい	9	30.0



• **教具、教材の開発について**

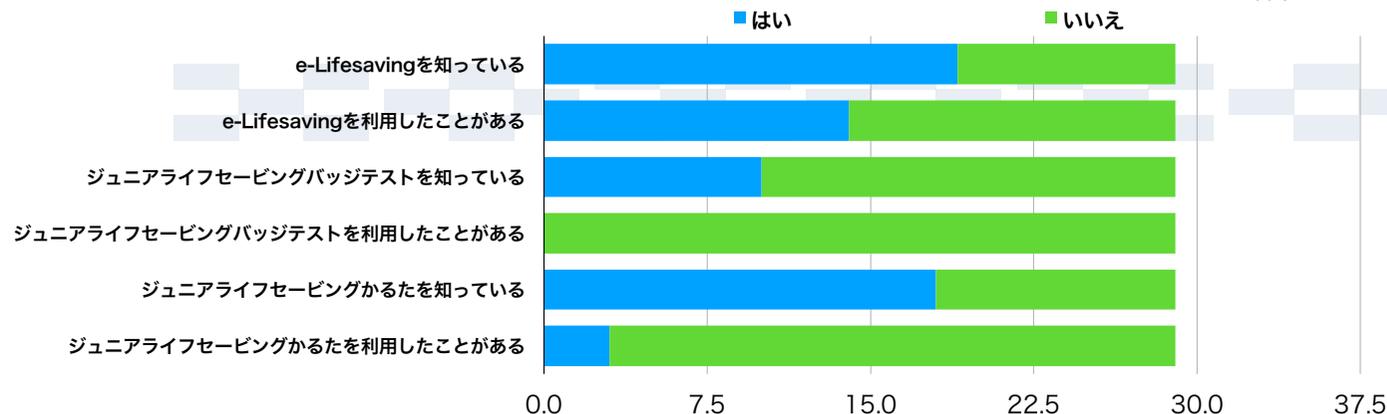
- e-Lifesaving、ジュニアライフセービングかるた、ジュニアライフセービングバッジテストに関するアンケートでは、ジュニア教育に関心の高い参加者の中でも、3割～6割程度の認知度にとどまるのが現状です。

⇒周知のため、リーダー講習会への導入や研修会を実施、クラブハウスのグループワークテーマとしての設定も検討します。

- 周知が進むことで、利用数が増えると考えられます。同時に、利用にあたってのハードルがないかを分析し、より使いやすく効果的な教具、教材の開発に活用します。

	名	%	名	%
申し込み			30	
	はい		いいえ	
e-Lifesavingを知っている	19	63.3	10	33.3
e-Lifesavingを利用したことがある	14	46.7	15	50.0
ジュニアライフセービングバッジテストを知っている	10	33.3	19	63.3
ジュニアライフセービングバッジテストを利用したことがある	0	0.0	29	96.7
ジュニアライフセービングかるたを知っている	18	60.0	11	36.7
ジュニアライフセービングかるたを利用したことがある	3	10.0	26	86.7

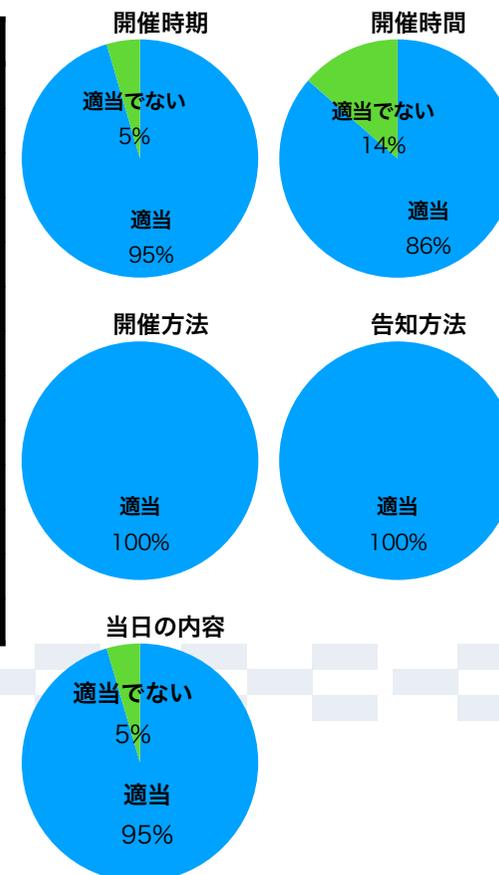
※1名未入力



6、事後アンケートより

- ・【全体】 各アンケートとも高い満足度がうかがえる評価となりました。想定より多くの方々にお申し込みいただきました。
- ・【開催時期】 第1回全日本ライフセービング/学生ライフセービング・SERC選手権大会と重なったことにより、参加しづらさを感じた方がいました。できる限り各種行事等と間隔を空けたいと思います。
- ・【開催時間】 日曜日の夕方ということで、参加しづらさを感じる方がいました。⇒子育て世代が参加しやすい時間や、学生が参加しやすい時間もあると思います。より多くの方が参加できるよう、開催時期や時間を変化させることも検討します。
- ・【開催方法】 開催方法に関する否定的な意見はありませんでした。オンラインによる参加に前向きなことは好機と捉え、今後も継続していきたいと思います。加えて体験的な事業も検討していきます。
- ・【告知方法】 参加者の傾向から、今後より広く参加者を募ることができるよう工夫が必要だと考えます。
- ・【当日の内容】 メンバーにより話の内容に偏りがあり、時間が足りないグループと、余るグループがありました。次回は、全てのグループで活発な話し合いを促すため、テーマ別グループの設定を行う予定です。

		名	%
申し込み		30	
参加者		22	73.3
事後アンケート			
開催時期	適当	21	95.5
	適当でない	1	4.5
開催時間	適当	19	86.4
	適当でない	3	13.6
開催方法	適当	22	100.0
	適当でない	0	0.0
告知方法	適当	22	100.0
	適当でない	0	0.0
当日の内容	適当	21	95.5
	適当でない	1	4.5



7、事後アンケート自由記載より

自由記載から具体的に良かった点、悪かった点などが書かれたものについて検討しました。似通った意見は、1つにまとめています。全体的には肯定的な意見、次回以降の開催を望む声が多くありました。ここではあくまで一部のハイライトの紹介にとどめています。

1) 運営について

① 参加者の名前を漢字名+地域名や、委員会名など統一した方が話しやすい。

→当日時間が限られるため、変更方法をzoomのURL通知時など事前連絡に合わせて告知します。zoomの機能自体の調整時間を設けます。

② 楽しくなる、得られるものがあるという前向きな感覚が得られる仕掛け作り。

→機能的な仕掛け作りと、クラブハウスが「集まりたくなる場所」になるような運営を目指します。

④ 大会とのブッキング。

→今後も早めに日程調整し、できるだけ重ならない日程調整にて今後とも実施します。参加できる機会を増やすには、定期的に継続して開催することも必要と考えます。

⑤ 直前にもっと、目立つ告知をしてはどうか。

→効果的な告知方法については、次回さらに改善していきたいと思います。

2) グループワークについて

① ライフセービング関係者以外の話も有意義であった。バッジテストやカルタ等の意見も聞きたかった。

→今後も広く参加者を募る工夫が必要です。バッジテスト、カルタ、e-lifesavingなどのグループテーマを設けることも検討します。

② グループワークの持ち時間が短かった。

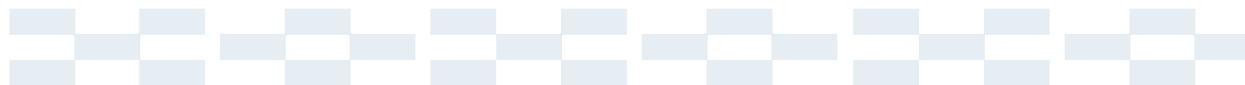
→グループの人数調整、グループワークの時間の調整を検討します。

③ 幅広い視点のアドバイスが参考になった。

→参加者の活動地域、活動年数、バックグラウンドなど広く募ることが今後も必要と考えます。

④ 他のグループの話も聞きたかった。

→他のグループの内容を動画で共有する、発表物を各グループで制作するという案も検討しましたが、各グループ内でのコミュニケーションを優先したいと考えています。



⑤ 顔合わせという意味では良かった。話したいテーマでグループ分けしてはどうか。

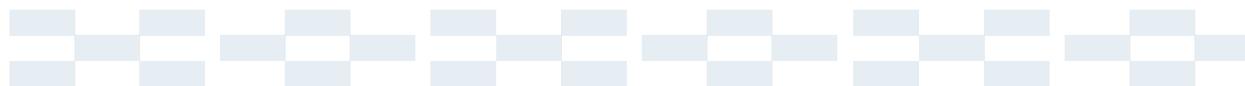
→テーマ別グループワークを40分3名前後、顔合わせのグループワークに15分5名前後など時間にメリハリをつけて、それぞれの良さを引き出す運営も検討していきます。

⑥ 2回のグループワークで同じメンバーがいた。

→人数の割合上同じ人がいることを、事前に伝えておりませんでした。時間が足りないと感じる人がいることもわかったため、グループの人数調整も検討したいと思います。

⑦ テーマを設けたフリートークや、地域性、対象者、目的などの具体的テーマで集まった人同士のコミュニケーションがとりたい。

→事前アンケートからのグループ編成等を工夫したいと思います。



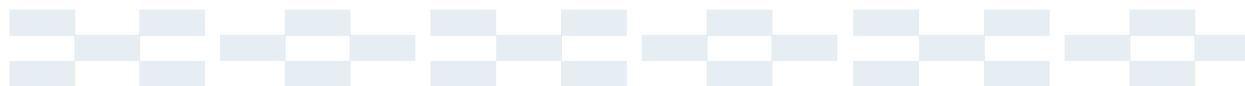
3) その他

- ① 「～来年、6月くらいにこちらに来て小学校で安全教室を行ってほしいです。7月の海開きにイベントを開きたいと思いました。その時のライフジャケットをどうするのか、保険はどうするのか、また悩みが増えたので、こちらのメンバーと相談します。～」

→JLA関係者以外の参加に対して、具体的にアドバイス、マッチング、継続的なフォローなどができるような準備をしたいと思います。

- ② 回数を重ねていく中で、プロフィールなどお互いのことをわかっていきたい。

→継続的な開催が必要です。参加者が単発で参加するのではなく、クラブハウスのメンバーになるような意識で継続的に参加する意欲を持てる運営を目指します。フロー型→ストック型。



8、次年度事業案

「地域クラブ全てにおいてジュニアライフセービング活動を」力強く後押しします！！

定期開催事業化（2022年度は春、秋に開催予定です）

- ・ジュニア教育指導者プラットフォームを形作るための、基礎的な情報交換空間の構築を目指します。各JLA委員会と連携することで、学生など幅広い参加を促し、ここで得られた様々な実践知をJLA資格に還元します。

スタートアップ支援

- ・ライフセービング教育の実態調査報告書により、関心度が高かったクラブや、現在未実施のクラブへの積極的な広報を行い、クラブハウスへの参加を促します。事業立ち上げ時の問題を解決できる、グループテーマを設定します。

ジュニア指導者コミュニティの活性化

- ・実際にジュニアプログラムを運営する中で関心の高いテーマについて、テーマを絞った意見交換や、先行事例の紹介などを実施します。

ライフセービング教育本部は「2031年までにすべてのクラブにジュニアライフセービング活動を」というテーマを掲げています。人と触れ合い、水に親しむ中で芽生える安全への意識や、自他の生命を大切に想える子どもを育てることは「水辺の事故ゼロ」へ向けた大切な取り組みに直結していきます。

この度の「ジュニアライフセービングクラブハウス」にご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。コロナ禍でも、子ども達の未来に寄り添われようとする温かいお気持ちは、ライフセービング界、いや…地域社会、日本の希望です。今回ご参加が叶わなかった皆様、第2回目は春に実施予定ですので『クラブハウス』という性質の元、是非、気兼ねなく遊びにきてくださいね。

「まずは一歩目を踏み出すこと。」何においても大切なことですよね。特にこの時代だからこそ、例え画面上でも一堂に会し、それぞれが子ども達の笑顔を想い、過ごした時間はとても意義あることだと実感しています。ご参加いただいた方の中には、具体的にジュニア活動を回していくためのコアな情報を求めている方、そもそものジュニア活動を実践していくノウハウ、マインドセットを求められている方、様々であったように思います。私たちはそうした方々を繋ぐネットワークや、プラットフォーム作りとなるコーディネーター、ファシリテーターであり続ける役割を再認識した時間でもありました。これだけ多くの参加者に集っていただけたことは、紛れもないニーズと受け止め、さらなる展開を考えていきたいと思っています。

子ども達の体験活動が減少、制約を受けて2年が経ちます。尊い成長過程にある2年という月日はとても、とても、大きな意味を持ちます。今こそ、私たちライフセーバーが手を差し伸べ、海（水辺）へと、いざなう時です。まずは私たちから！笑顔で！繋がりを大切に！発信（発進）していきましょう。

2022年1月

ライフセービング教育本部長 松本 貴行





ライフセービング教育本部

本部長 松本 貴行
副本部長 木島 悠太朗

学校教育推進委員会
地域教育推進委員会



学校教育推進委員 安達 雄太
特別支援学校教諭
勝浦ライフセービングクラブ



学校教育推進委員 小田 眞木子
都立高校専任教諭
鹿島ライフガードチーム



学校教育推進委員 島田 貴史
私立中学校高等学校教諭
成城学園ライフセービングクラブ



学校教育推進委員 城田 永
東海大学/JLA学生室
東海大学・平塚ライフセービングクラブ



学校教育推進委員 高木 貴光
県立高等学校教諭
愛知ライフセービングクラブ



学校教育推進委員長 松本 貴行
私立中学校高等学校教諭
成城学園ライフセービングクラブ



地域教育推進委員 石原 早織
県立学校養護教諭
静波ライフセービングクラブ



地域教育推進委員 今井 俊介
会社員
柏崎ライフセービングクラブ



地域教育推進委員長 木島 悠太朗
沖縄県ライフセービング協会



地域教育推進委員 國木 孝治
九州看護福祉大学 教授
萩ライフセービングクラブ



地域教育推進委員 大山 玲奈
会社員
波崎サーライフセービングクラブ



地域教育推進委員 中村佐知子
ゲストハウス経営
天橋立ライフセービングクラブ